

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第1回相模原市小中一貫教育あり方協議会				
事務局 (担当課)		学校教育課 電話042-769-8284(直通)				
開催日時		平成29年12月8日(金) 10時00分～11時30分				
開催場所		第2別館 5階 教育委員室				
出席者	委員	3人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	7人(松田課長、大津課長代理、他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		(1) 開会 (2) 小中一貫教育の概要について (3) 相模原市小中一貫教育基本方針(案)について (4) 閉会				

経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

(1) 開 会

事務局：あいさつ

相模原市小中一貫教育のあり方協議会設置要綱について説明

(2) 委員の自己紹介

会長の選任

会長に古川委員を選任

副会長の選任

副会長に守屋委員を選任

会長あいさつ

(3) 小中一貫教育の概要について

事務局：小中一貫教育の概要について説明

会長：質問はあるか。

委員：全国では48校あるが、相模原はこれから取り組んでいくということによろしいか。

〃：お見込みのとおり。

〃：小中一貫教育の実施にあたり、義務教育学校及び小中一貫型小学校・中学校の複数の方法が示されているが、その理由は。

〃：義務教育学校の条件である、小・中学校両方の免許を併有した教員を集めることが大きな課題であるため、小中一貫型小学校・中学校の型式による小中一貫教育の推進も進めていくべきだと考えている。

〃：中学校への進学喜びがないのではないかという意見が本校でも開校前にかなり出たが、制服を着ると生徒の意識は中学生に切り変わっていると感じている。6年経った今、その意見を言う人はいなくなった。

〃：同じ校舎を使用しているのか。

〃：同じ校舎を使用しているが、小・中学生がお互いを尊重しながら使用しているため問題はない。本校の学校パンフレットのとおりに、児童生徒に思いやりの気持ちが生まれ、この点に関しては一番効果があったと感じている。

〃：地域からは、中学生が小学生をいじめるのではないかという心配があったが、そのような問題はなく、今は登下校の時に小学生の手をつないで登校している。また、運

動会では、小・中学生の文化が融合しており、面白い場面が多く見られた。更に、中学生の作文においては、「僕もあんなに小さい時があったんだ。」という感想も見受けられ、自身を振り返るきっかけにもなっているようだ。現在、中学生の問題行動が全く見られなくなったと感じている。

：小・中学校の教員が合同で指導できる点が利点として挙げられているが、実際にはどんな様子か。

：立ち上げ当初はそれぞれの文化が異なるため、やはり心の隔たりがあったが、時間が経つにつれてそれがなくなったと感じている。中学校の数学の教員はよく、九九もできない状態で、そのまま中学校にあげてきてほしくない、などと言うが、実際に現場で状況を見ると、わからない子が生じてしまう実態を理解できる。今は、小学校の担任が職員室で「今日から九九の勉強が始まるので協力お願いします。」と言うと、多くの教員が授業に参加して教える場面が見受けられる。

：単級のため、走るのが苦手な子どもは他者と比較するとずっと苦手なまま、という事例もあると思うが、そのようなときにどのようにフォローしているのか。

：単級は、「はずす、はずされず」の雰囲気があるので、お互いに尊重し合っているようである。しかし、他方でリーダーが育たないという実態はある。しかし、近隣の一部地区では本校か他校を選択できるため、近年は評判を聞いて中学校課程から編入して来る子どもが多くなっている。

：小中一貫教育の基本方針について説明

：基本方針について、質問や意見を聞きたい。主に中1ギャップの対応が挙げられているが。

：中学校の先生が、小学校の児童と既に顔見知りになっている効果は大きく、中1ギャップはなくなったと感じている。

：児童・生徒の交流に関しては、挨拶運動や吹奏楽部の派遣等、交流はあると感じている。中学生から見ると活躍の場になっているのではないか。

：小学生にとっては、将来は吹奏楽部に入りたいなど、中学生への憧れを抱く良いきっかけになる。昔、卒業前に実際に中学校に行って、児童生徒を一日過ごさせて英語の授業や部活動の見学をさせたが、とても効果的だった。これから9年間を見据えて、小・中学校のお互いの校長が交流の更なる促進を考えてくべきである。また、新しい学習指導要領には幼保小のスタートカリキュラムがうたわれている。これからは、幼保小中も考えていかなければいけない。教育委員会としてもそこも含めて考えてほしい。

：今までと異なることをやる時には、大きなエネルギーが必要だが、まず互いに交

じり合うために職員室を一緒にしたのは、とても効果的だった。今は会議を開かなくても職員室では小・中学校の教員同士の会話が聞こえてくる。水泳指導の際にも小学校の先生が指導の仕方に困っていたら、中学校の体育の教員がすぐにアドバイスをし、授業にも指導に来てくれた。

：貴校の学校パンフレットの写真を見ると、中学生が小学生に勉強を教えているようだが。

：中学生には事前に教え方をレクチャーしており、しっかりと理解してから参加させるようにしている。

：貴校では、教員免許について、教員の免許の併有が難しいため、兼務発令で対応しているということだった。現状は義務教育学校ではなく、小中一貫型小学校・中学校であるという認識でよろしいか。

：お見込みのとおり。義務教育学校になるにあたり、そこが課題となっており、これから新たに免許を取らせるなど考えていかないといけない。

：貴市ではその予定があるのか。

：現状は特にないと思われる。

：相模原市は、これまで同じ教育カリキュラムで実践してきた。しかし学力学習状況調査の結果から見ると、それぞれの学校の状況に合ったカリキュラムで行う必要があると思う。地域によっては、宿題をやってきなさいと言えばほぼ全員やってくる地域もあればそうでない地域もある。小中一貫教育も学校の状況に応じたカリキュラムが必要と考えるが、事務局の見解は。

：やはり学校の特色に応じてカリキュラムを組むことが必要だと思っている。基本方針にそのことを記載したが、もう少し別の表現をしたほうがよろしいか。

：具体的はどんな想定をしているのか。

：教科ごとに、カリキュラムを系統付けていくことを想定している。

：そこが難しい。小学校は、原理原則を中心に学び、中学校は受験を意識して覚えることが中心になっている。それではいけないと思っている。成績を意識しすぎないで、日本の社会で活躍できる力を身につけてほしい。小・中学校のいずれも、反比例を学習するが、教え方が異なる現状がある。見方、考え方、学び方、それをそろえていく必要がある。中学校の先生は、小学校の教科書見ることがほとんどない。教科の系統性について、もっと具体的な言葉でイメージを持ちながらやらせてほしい。特に、授業の方法が最も異なるのは体育の授業であり、それぞれの発達段階があるので、教科で系統立てることは難しいと考える。

：先日、庁内で行った検討会議にて、基本方針のキャッチフレーズが弱いという意

見があった。

：「わかるたのしさ、学ぶ楽しさ」といったキャッチフレーズを付けていけば良いのではないか。また中学校区ごとに目指す子ども像を共有していくことに関しても、表現は難しいが工夫が欲しい。

：相模原の小中一貫教育は、同じ校舎を使うわけではなく、それぞれの校舎と学校組織で行うということか。

：地域の規模の問題があるため、すぐには同じ校舎でスタートできない。

：保護者の立場からすると、もし合同で運動会をやると、演目が減ってしまうのではないかと心配になる。また部活動についても、下校時間が気がりである。

：小学生の下校時間は5時としている。吹奏楽部は、コンクールが近くなってくると、最後に合奏するので、特に対応困っているとは聞いている。運動会は、全体の開催時間は長くなったが、小・中学校の様々な競技を見ることができるよう、評判は良い。保護者も自分の子どもの競技を見るだけでなく、一日中観覧をするようになった。

：大規模校と小規模校では、取り組みが違う。地域の特色を活かしながら学びの一貫性を意識しつつ、模索していくことが大切だと考える。

：本校では、共通の門づくりや、学園歌の作成等、小・中学校の意識を一体にするための仕掛け作りを積極的に行った。また、校区にしては、見直しをしている。従来の出前授業は出前授業でしかなく、本当の意味での交流が必要だと考える。キーワードは物理的にいかに交流するか。その仕掛けをつくっていくことが重要である。

：児童の交流も重要だが、教員の交流が重要だと考える。

第1回相模原市小中一貫教育あり方協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	古川 鉄治	白百合女子大学 教授	会長	出席
2	守屋 裕一	町田市立小中一貫ゆくのき学園 校長	副会長	出席
3	林 さとみ	相模原市小中学校P T A連絡協議 会 本部役員	委員	出席